

学校教育目標	「やる気 いっぱい、やさしさ いっぱい、元気 いっぱい、蒔田っ子」 【知】自らすすんで問題にかかわり、他者とのつながりを通して、粘り強く解決することができるようにします。(自律) 【徳】人との関わりの中で思いやりの心を育み、自他のよさを認め、自分に自信をもつことができるようにします。(対話) 【体】望ましい生活習慣を身に付け、健康で安全に過ごせるようにします。(自律) 【公】すすんで自分たちのまちとかかわり、学校や地域をよりよくするために自ら考え、実践する力を育てます。(創造) 【開】多様性を尊重し、国際社会への視野を広げられるようにします。(対話)				
	創立 75 周年	学校長 鳥飼 信幸	副校長 中村 顕哉	2 学期制	一般学級: 13 個別支援学級: 4
学校概要	児童生徒数: 413 人 主な関係校: 蒔田中学校、南太田小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力>	蒔田中学校 蒔田小学校 南太田小学校	目標を見つけ学び続ける子ども ・発達段階に応じたキャリア教育を通じ、先の見通しをもって自己実現を目指す子どもを育てる。 ・「できる」「わかる」体験を通して、自信をもち、自他を高める子どもを育てる。 ・まちや人との関わりを通じ、社会とつながり、地域を愛する子どもを育てる。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上を目指すとともに、対話的・問題解決的な学習を取り入れる。 ・異学年交流を通して自己のよさに気づき、自分と他者を大切にすることを育てる。 ・運動に親しみ、健康・安全の意識を高める。 ・「人」とのつながりを意識し、豊かな体験的学習活動を通して、学校やまちを愛する心を育てる。 ・豊かな情操を育成するための体験的学習活動を通して多様性を尊重し、共生する力を育てる。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①子どもが主体となって学習したり、協働したりする場面を意図的に設定し、「自ら考えたい！伝えたい！深めたい！」という思いをもつことができる授業を行う。 ②ICT端末を活用し、教師は子どもの学びを見とり、学習に生かす。また、協働的場面で、ICTを活用できるようにする。 ③一人ひとりが参加できる学習をめざし、学力を高められるようにする。
担当 研究研修推進委員会	
徳 道徳教育	①学校教育活動全体を通じて道徳教育を推進し、自他のよさに気づき、お互いを大切にすることができる学習活動を意図的につくる。 ②各教科領域と道徳科のつながりを大切に教育課程を編成する。 ③全学級の道徳科授業公開を年1回以上実施し、家庭や地域との連携を図る。
担当 道徳部、研究研修推進委員会	
体 健康教育	①健康診断や体力・運動能力調査の結果、横浜St☆dy Naviの健康観察をもとに、児童一人ひとりが自分の課題を把握し、健康な生活を送るために必要なことをすすんで実践しようとする姿勢を培う。 ②委員会の子どもたちが計画した体育朝会や学校保健委員会などの活動を推進し、日常的に楽しみながら体力を向上させたり、健康に対する意識を高めたりする。
担当 体育部、環境・保健安全推進委員会	
公開 自分づくり教育 (キャリア教育)	①「自分づくりパスポート」や「見える化」掲示を活用して、中学校ブロックで育成を目指す資質・能力を意識して生活できるようにしたり、日々の生活の中でふりかえったりすることで、自分の成長や自己有用感を実感できるようにする。 ②外部講師や地域の方々を招いた授業を積極的に実施することで、社会と自分たちのつながりを実感したり、自身の将来について考えるきっかけにしたりできるようにする。
担当 教務部、生活・総合部、特活部	
いじめへの対応	①日々の健康観察(横浜St☆dy Navi)やセクハラ相談窓口を活用し、子どもの思いや不安を早めに察知し、解決に向けて迅速な組織対応をする。 ②YPアセスメント、アンケートを活用し子どもの思いを受け止め、子どもの社会的スキル横浜プログラムを実践し、子どもが安心して学校生活を過ごせるようにする。 ③いじめ防止基本方針を広く周知し、地域社会全体で子どもを見守れる体制づくりに努める。
担当 児童支援推進委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①主幹教諭を中心にチームでの対応やグループでの提案を行うことにより、個々の役割を明確化することでさらなる参画意識の向上や組織力の強化を図る。 ②メンター研修では、学習指導や児童指導の課題を共有し、指導力の向上を図る。ミドルリーダーなどが参加して指導・助言を行うことで、学校全体としての力を高めていく。 ③ミライムやタブレット端末、Teamsを活用して情報共有をし、職務全般の簡便化、効率化を図る。
担当 教務部、メンターチーム	
特別支援教育	①個別の教育支援計画や指導計画を活用し、保護者と合理的配慮を積極的に図り、個に応じた支援につなげていくようにする。 ②SC、SSW、関係機関と連携し、不安や悩みを抱えている児童の支援に努める。③特別支援教室を活用した登校支援やSSTを活用した情緒支援に努め、子どもが安心して取り組める環境整備や支援体制を行う。
担当 児童支援推進委員会	
多文化共生	①外国につながる児童が安心して学校生活を送れるように、関係機関との連携を図り、教職員全体で情報を共有する。 ②各学年で多文化共生の授業を行ったり、全校児童向けに他国の音楽や文化などに触れられる時間を作ったりすることを通して、互いの文化を理解し、多様性を尊重しあう姿勢をもつことができるようにする。
担当 人権教育・国際教室	
地域学校協働活動	①授業に実際に来て支援していただくなど、学校と地域が協働して子どもの資質能力を育成していくためにより一層ひらかれた学校づくりをすすめる。 ②子ども、保護者、地域へのアンケートを実施し、それをもとにした教育活動の工夫につなげていく。 ③清掃活動などの体験的学習活動の充実を図り、より一層地域とのつながりを子どもが感じられるような環境を整える。自分たちの住むまちを愛する心を育てていく。
担当 副校長、教務部	
担当	b10